

法人名 特定非営利活動法人 マナビダネ

事業計画書

事業名	不登校の子どものための学びの土台をつくる居場所事業
種類	(1) SDGs 推進事業 (人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ) (2) 自立促進事業 (人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ)
1. 事業の目的	<p>この事業は、不登校の子どもにも教育機会が欲しい、という親の思いから始まった居場所事業であり、家庭だけではできない各種体験や人との交流ができる安心な場の提供を目的としています。</p> <p>【これまでの活動】</p> <p>この法人は、2022年4月に設立した団体です。様々な理由により学校になじめない児童・生徒に対して、自立に必要な「生き抜く力」「主体性」「考える力」を備えるために、所属感を持てる安心な居場所での学習機会や遊びから学びの意欲を育むための各種体験型学習、自宅にいても参加ができるICTを活用した学習機会の提供をすることを目的としています。</p> <p>初年度の活動は、週2回の学び場（居場所）の提供の他、親子で参加できる遠足等のイベントの開催や、マイクラフトというゲームを通じたオンライン交流会を月に2回開催する他、週1回の学習を主とした居場所の開催などを行いました。また、母子分離が難しい参加者がいたことなどから、居場所活動への参加は保護者同伴可能としているため、保護者支援も活動の中であわせて行っています。</p> <p>【活動の中で明らかになった課題】</p> <p>発達障害を持つ子どもの親の会のメンバーが主となり設立した団体であるため、初年度参加者の6割は発達障害の診断を持つ子どもたちでした。また、未診断の子どもたちであっても、家庭内の状況が安定していない等の理由により精神的な脆さがあるため、参加する全ての子どもに個に応じた配慮が必要であることがわかりました。</p> <p>また、勉強への苦手感や、指示に対する過剰な抵抗感をもつ子どもたちも多いため、課題提供型の一斉プログラムの実施が難しいです。</p> <p>こうした理由から、この配慮が必要な子どもたちとその保護者の支援にはスタッフの適性や能力が必須になりますが、求める人材になかなか出会えない他、費用面でも人材確保が困難な状況です（課題1）。</p> <p>さらに、この活動の運営には資金等の援助がほとんどないため、活動の継続をより難しくしています。活動にかかる費用は、保護者の支出か、スタッフの奉仕によって捻出しています。また、保護者の方は不登校の子どもがいることで就業機会を損失している方も多く、スタッフの方は超低額の時給で対応しているため、1年だけですが、保護者、スタッフの双方に疲れがみえます（課題2）。</p>

	<p>活動内容については、多様な個性と異年齢が集まる場だからこその良さがある一方で、子ども同士の交流が深まるほどに集団の難しさが明確にもなってきました。提供内容の基本的な方向性にはブレは感じないものの、客観的な子どもの課題把握や対応方法をスタッフと共有することの必要性を痛感しています（課題3）。</p> <p>【課題に取り組むことの必要性・重要性】</p> <p>今年の3月に文部科学省よりCOCOLOプランという「誰一人取り残されない学びの保障にむけた不登校対策」が発表されました。急増が止まらない不登校の子どもたちが、学びにアクセスできない現実を打破するための喜ばしいプランですが、実際はこれから対策が始まるということでもあります。</p> <p>これを受けて、本法人も入間市の児童生徒については希望するならば当活動への参加が出席認定となることが決まりました。その際に、入間市でも急増が止まらないと聞きました。</p> <p>出席扱いの有無も大事ですが、学校復帰を目的としない不登校支援は、学校生活に苦い経験をもつ子どもたちが、将来、幸せな社会人として生活していけるように不可欠です。</p> <p>これらの活動は、SDGsの「質の高い教育をみんなに」および「すべての人の健康と福祉を」目標であり、持続可能な社会の実現に本事業が寄与できると考えます。</p>
<p>2. 事業の内容</p>	<p>(1) 週2回の居場所事業の実施</p> <p>① 趣旨 実体験を通じて多くのことを学ぶことを意図して、自然体験や人との関わりから、子ども達が主体的にもった興味関心から学びを育み、社会参加に必要な力を伸ばすことを目的としています。</p> <p>② 実施時期 (令和5年9月5日～令和6年2月末) 実施中の居場所事業を助成対象期間中にあわせて申請しました。</p> <p>③ 対象者 不登校や行き渋りのある子どもとその保護者(小1～高3)</p> <p>④ 場所入間市青少年活動センター他</p> <p>⑤ 参加見込み人数 各回8名(12名まで増員希望)</p> <p>⑥ 協力者・団体等 県内の不登校関係事業をしている多様な学びに関心のある人たち 地域の人たちおよび学生ボランティア NPO法人フリースクール全国ネットワーク NPO法人多様な学びプロジェクト</p> <p>(2) 学校心理士による訪問支援 気になる子どもたちの観察をしてもらい、指導のポイントを把握する。 学校との連携がある子どもについては、必要を感じた内容については学校へも情報を共有をする。</p>

<p>3. 実施計画</p>	<p>(1) 毎週火曜日、木曜日に学び場（居場所）を開催。 期間内に 47 回実施予定。</p> <p>(2) 毎月一回、スクールカウンセラーによる訪問指導を実施。</p> <p>○スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="512 331 1321 645"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9 月</td> <td>5.7.12.14.19.21.26.28</td> <td>計 8 回開催</td> </tr> <tr> <td>10 月</td> <td>3.5.10.12.17.19.24.26.31</td> <td>計 9 回実施</td> </tr> <tr> <td>11 月</td> <td>2.7.9.14.16.21.28.30</td> <td>計 8 回開催</td> </tr> <tr> <td>12 月</td> <td>5.7.12.14.19.21</td> <td>計 6 回開催</td> </tr> <tr> <td>1 月</td> <td>9.11.16.18.23.25.30</td> <td>計 7 回開催</td> </tr> <tr> <td>2 月</td> <td>1.6.8.13.15.20.22.27.29</td> <td>計 9 回開催</td> </tr> </tbody> </table> <p>○広報計画</p> <p>団体 HP やチラシ等を市内公民館等で掲載。 市内および近隣市の各小中学校の相談室でのチラシの配布依頼。 SNS を活用した広報の中で、埼玉県内で不登校支援をする団体への周知協力をお願いする。 また、広報担当者の人脈を活用した情報拡散や、フリースクールネットワーク他、各種関係団体へもインターネットを活用した周知を行う。</p>	時期			9 月	5.7.12.14.19.21.26.28	計 8 回開催	10 月	3.5.10.12.17.19.24.26.31	計 9 回実施	11 月	2.7.9.14.16.21.28.30	計 8 回開催	12 月	5.7.12.14.19.21	計 6 回開催	1 月	9.11.16.18.23.25.30	計 7 回開催	2 月	1.6.8.13.15.20.22.27.29	計 9 回開催
時期																						
9 月	5.7.12.14.19.21.26.28	計 8 回開催																				
10 月	3.5.10.12.17.19.24.26.31	計 9 回実施																				
11 月	2.7.9.14.16.21.28.30	計 8 回開催																				
12 月	5.7.12.14.19.21	計 6 回開催																				
1 月	9.11.16.18.23.25.30	計 7 回開催																				
2 月	1.6.8.13.15.20.22.27.29	計 9 回開催																				
<p>4. 実施体制</p>	<p>①統括責任者および②連絡責任者 土橋秀子</p> <p>③現場責任者 山下亜希子（法人副代表理事） 木村香（次期理事候補）</p> <p>④経理担当者 未定（現状では土橋が担当しています）</p> <p>⑤広報担当者 久保田希</p>																					
<p>5. 事業の効果</p>	<p>平日の日中に学びの機会が安価で提供される場所があること、これが本事業の一番の効果だと考えます。（効果 1）</p> <p>不登校になると多くの方は勉強をしなくなることが最も大きな損失だと思うようですが、一番の問題は、家庭外の人たちの交流や、授業外のカリキュラムで得られることを損なってしまうことです。そこで、本事業では、さまざまな自然活動、アナログゲーム等での遊び、そしてミーティングという活動を通じて、子ども達が学校で体験できることの一部を補うことを目的としています。</p> <p>一方で、マイプラン学習という時間を過ごす中で、他の子どもが真剣に勉強に向かう姿をみることで、勉強へのモチベーションを感じる子どもたちもいます。</p> <p>今の活動の形になって 1 年弱ですが、この学び場に参加することで、子ども達は「人と関わることの喜び」や「自主性や主体性」「自己理解」を学んでいると感じています。（効果 2）</p> <p>これらの効果の影響かは不明ですが、意図していなかった学校復帰をする子どもが続出しています。参加から 8 か月～1 年くらい経つ子どもの数名が、適応指導教室や学級への参加を始めています。進学した高校に休まずに通っている子もいます。</p>																					

	<p>これは、この居場所の中で、安心な大人とのゆっくりした関わりをもったあと、異年齢の子どもとの関わりのなかで人と繋がることの喜びを体験すると、子どもは同世代の子どもたちとの交流を求めるように見えました。また、「自分は大丈夫なんだ！」という自己信頼が育まれているようにも感じます。(効果3)</p> <p>中には、この居場所に物足りなさを感じると保護者に伝える子もいるようですが、参加前には家から出るのも抵抗があったときと比べると、外にいく準備ができたからこそその行動に思えます。</p>
<p>6. 今後どのように事業を継続し発展させるか ※自立促進事業のみ</p>	<p>安定した事業継続のためには、参加者の継続が望ましいところですが、本事業については参加者が社会参加していくことが望ましい結果であるため、安定運営が期待できません。</p> <p>そこで、財源としては、継続的な寄付をいただくことや、法人の賛助会員をふやすことが安定運営の要だと考えます。</p> <p>そのためにも、まずは実績を残すこと、実績を残すために、質が保障された居場所を継続的に運営していくことが必要です。</p> <p>また、不登校の子どもたちがどのような社会参加をしていくかを示せるモデルとなる子どもたちへのインタビュー等、可能な範囲で情報公開しながら、本事業の必要性を証明していく予定です。</p>

◎応募の際に本予算書で計上しなかった経費項目は、事業実施時に支出が生じたとしても対象経費とはなりません。

法人名 特定非営利活動法人 マナビダネ

事業収支予算書

1 収入の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
助成希望額 (千円未満切り捨て)	500,000	
自己資金	19,000	年会費等から支出します
事業実施による収入等	520,000	参加費 (登録中の人数で計算) ① 6名×14,000円(月)×5か月分 ② 5回参加券 10,000円×10セット
その他		
合 計	1,039,000	㊸

2 支出の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
会場費	0	入間市の施設を無料利用のため
通信運搬費	0	
旅費交通費	15,750	・片道 375円×2×21回分
消耗品費	40,000	調理やたき火活動にかかる備品購入、文具代等、1か月 8000×5か月分 (R4年度を参考に算出)
備品費	0	
委託費	0	
謝金	100,000	訪問指導をお願いする予定の心理士への謝金 20,000×5回分
人件費	858,250	5000円 1名 (山下理事) 3000円 4名 (土橋・木村・岡・玉邑を予定) ×47回 謝金支払い内規に詳細を明記
その他 (保険代)	25,000	フリースクールネットワークの損害保険に加入予定。月割り予想額 5000×5か月分
合 計 (事業費)	1,039,000	㊹

収入の部の合計 (㊸) = 支出の部の合計 (㊹)